

2018年8月23日

株式会社ココステージ

一般社団法人たけのこ

報道関係者各位

専門知識と指導スキルで発達障がい児にスポーツの機会を提供
発達障がい児専門のフットサルコートが9月1日プレオープン
～子どもスポーツデイサービス『ココスポーツ』～

株式会社ココステージ(本社:大阪府箕面市、代表理事:浅井猛雅)と一般社団法人たけのこ(同)は、2018年9月1日(土)兵庫県伊丹市に、発達がい児専門のフットサルコート1面をプレオープンします。なお、11月下旬には、フットサルコートがもう1面オープンし、併設の放課後等デイサービスの施設が完成。子どもスポーツデイサービス『ココスポーツ』としてグランドオープンし、オープニングセレモニー等を予定しています。



※写真の撮影場所は、今回オープンするフットサルコートとは異なります

発達障がい児専門のフットサルコートは、「子ども達がスポーツに取り組む機会が欲しい」「余暇活動を通じて、人生を豊かにする機会を作りたい」という発達障がい児の保護者からの要望に応える形オープンの運びとなりました。当法人と連携している公益社団法人子ども発達科学研究所^{※1}からの指導助言を受けて、科学的根拠に基づいた、安心かつ安全で専門性の高い指導を提供致します。

今後『ココスポーツ』では、放課後等デイサービスとしてのスポーツ療育、一般児童向けのフットサルスクールを実施し、仲間が自然と交流できる場所の実現の為にクラブハウスやフットサルコート2面を運営致します。スポーツの鍛錬という同じ目的を持って仲間が集まる場所を目指します。

※1 大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学、福井大学ら5大学の子どものこころの発達研究センターとの連携のもと、科学的根拠に基づいたプログラムの普及と啓発活動を行う。保護者、教育関係者、行政・医療関係者の連携を促します。(http://kodomolove.org/)

放課後等デイサービス プログラム（小学生コース）

1レッスン 90分のプログラムを実施します。子どもの脳が全開に働く内容を設計し、7つの項目で進めていきます。

①コーディネーショントレーニング

サーキットトレーニングで、まずは楽しく体を動かし、様々な動きを通じて、神経系に刺激を与えて「動き作り」を行います。



② プランニング 見通しを持ち、目標を設定し、表現します。

③ アクティビティー1 動きの質を高め、体を鍛えます。

④ ブレーク

完成を育てる。視覚、聴覚、触覚、前庭覚などを刺激し、緊張と弛緩の両方を味わいます。

⑤ アクティビティー2 考えながら動く。相手の動きを見て予測し、チームの戦略を考えます。

⑥ レビュー 活動を振り返る。自己評価をし、評価を受けます。自己肯定感を高め、次の意欲につなげます。

⑦ ワーク マナーを守って室内活動（ゲーム等）を行い、友達や指導員と楽しい時間を過ごします。

施設責任者：奥村愛 プロフィール



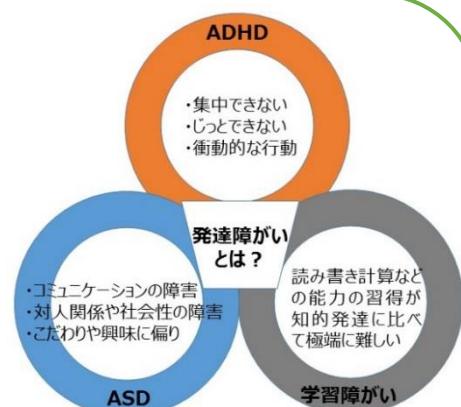
大学時代に介護福祉士の資格を取得。卒業後は、一貫して社会福祉に携わり 2015 年より「ココステージ伊丹」にて児童デイサービス事業に従事。高校まではハンドボール選手として活躍し、フットサルは大学から始めたにもかかわらず、選手として女子フットサルチーム SWHL（兵庫県芦屋市）にて 2012～2014 年度はキャプテンを務める。2015 年度全日本女子フットサル選手権で優勝を飾り、翌 2016 年度は同大会準優勝。2015～2016 年度は FUTSAL 地域女子チャンピオンリーグで準優勝という成績を残して引退。指導者として ROCKAMERIOS に所属。フットサル選手としての経験と、障がい児に対する専門知識および経験を積んだスペシャリスト。介護福祉士の他、JFA 公認サッカー C 級コーチ、JFA 公認キッズリーダーの資格を持っている。

【発達障がいとは】

発達障がいは、自閉スペクトラム症（ASD）、限局性学習症、注意・欠場多動症（ADHD）など、脳の機能障がいです。発達がいのある子ども達は、他人とのコミュニケーションや関係性作りが苦手であったり、多動だったり、集中することが難しかったりします。また、特定の事柄にこだわりを持ち、感覚が過敏であったり逆に鈍感であったりします。

発達障がいの中でも、知的発達の遅れのない（もしくは軽度の）子ども達は、外見では分からぬいため、「親のしつけが悪い」「親の愛情不足」「本人の努力不足」と誤解をうけてしまうことがあります。発達障がいのある子ども達は、発達のアンバランスさにより、社会生活で困難な状況に陥ることが多い一方、優れた能力を発揮する場合もあります。

発達障がいのある子ども達が、各人の個性を生かし、自立していくためには「早期発見早期支援」が大切です。



【スポーツ療育センター『ココスポーツ』概要】

株式会社ココステージ × 一般社団法人たけのこ

個別療育センター ココスマイル

子どもの発達科学研究所と連携の上、子どもの発達に応じた質の高い個別療育を行います。

集団療育センター ココスマイル

質の高い療育を集団の枠踏みで実現します。仲間とのつながり、豊富な体験を重視します。

子どもスポーツデイサービス ココスポーツ

スポーツを通じて、子どもたちお発達を支えることを目標に、科学的根拠に基づいたプログラムを実施します。

運営： 一般社団法人たけのこ

連携： 公益社団法人子どもの発達科学研究所

所在地： 兵庫県伊丹市車塚 2-82-7(仮事務所) 電話:072-782-8702

施設： フットサルコート 2面、2階建て建物 *9月1日(土)フットサルコート1面オープン

【会社概要】

社名： 株式会社ココステージ

事業所名： 児童デイサービス・ココステージ

代表： 代表取締役 浅井 猛雅(アサイ タケマサ)

資本金： 1千万円

URL： <http://cocostage.jp/>

【運営法人概要】

法人名： 一般社団法人たけのこ

代表： 代表理事 浅井 猛雅(アサイ タケマサ)

本社： 大阪府大阪市箕面市牧落 4-6-12 電話:072-723-7110

設立： 2013年12月3日

事業内容： 介護保険法に基づく居宅介護支援事業、介護保険法に基づく介護予防支援事業
介護保険法に基づく居宅サービス事業、介護保険法に基づく介護予防サービス事業
介護保険法に基づく地域密着型サービス事業
介護保険法に基づく地域密着型介護予防サービス事業
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業
児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
児童福祉法に基づく児童発達支援及び放課後等デイサービス事業

＜報道関係者からのお問い合わせ先＞

ココステージ(ココスポーツ) 広報事務局

TEL:03-5411-0066 FAX:03-3401-7788 E-mail:pr@netamoto.co.jp

担当:小林 (携帯:080-3498-2239)

参考資料

●発達障がい児がスポーツをするメリット

ココスポーツでは、科学的根拠に基づいた運動プログラムにより脳の健全な成長をサポートします。



脳機能の向上

運動は脳に刺激を与えます。脳機能に対して意図的に働きかけることにより、脳機能全体の健全な発達を促します。

動きの質の向上

歩く、走る、跳ぶといった基本的なフットサルの動きにも、質の高いやり方があります。質の高い動きをすることにより、より早く、より強く、より正確に動くことができるようになり、全ての運動競技に活かすことができます。

将来の余暇活動

人生を楽しく、充実させたものにするには、余暇活動が欠かせません。就職して自立することも大切ですが、友達と一緒に、一緒にできる活動があることは人生を豊かにするとともに、ストレス発散にもなります。

仲間との繋がり

スポーツは楽しい雰囲気の中、自然と仲間意識が芽生え、信頼関係が築けます。専門性の高い指導者を介して、コミュニケーションスキル、友人との問題解決能力を高めることができます。

●スポーツを通じて子どもの発達を支える

発達障がい児がフットサルに挑戦したとき、どのような難しさがあるのでしょうか。個人によって違いますが、例えば以下のことが挙げられます。そうした子ども達に対し、個々の特性に対応した方法で教え、中長期的な目標を立てながら子ども達に“できるようになる喜び”的な体験を積み重ねていきます。

眼球運動と空間認識

ボールの動きを素早く目で追うことが難しかったり、横の動きには対応できても、縦の動き(高さ)を認識することが苦手だったりします。また、空間を速いスピードで動くボールの空間認識が難しいなどがあげられます。

ルールの理解

細かいルールの理解や応用、練習方法の理解に時間を要する場合があります。

瞬時の判断の連続

ボールの動きを追いかけながら、自分が向かうべきゴールがどっちなのか。また、敵味方の位置を見て、瞬時に判断してパスをだす。といったように、フットサルをはじめ様々なスポーツには、刻一刻と変化する状況を瞬時に把握し、判断して行動に移すという流れの繰り返しだが、発達障がい児の多くは、こうした瞬時の状況把握と判断が苦手です。

●科学的根拠に基づいたプログラムで、脳の成長をサポート

「ココスポーツ」の支援の特徴は、運動スキルを磨きながら、コミュニケーションを構築することで、“楽しみながら成長する”ことを目標にしています。また、支援の特徴は以下の通りです。

スキルを科学的にアセスメント

一人ひとりの運動スキルを科学的根拠のあるスケールを用いて、正確にアセスメントし、個々の強みと課題を把握します。アセスメントは定期的に行い、指導の効果を明らかにします。

専門性の高い指導員による指導

発達がい害に関する知識はもちろんのこと、行動分析学に基づいた指導理論や具体的指導スキルを身に付けた専門性の高い指導員が指導にあたりますので、安心して参加いただけます。

少人数性で活動の質と量を確保

10人という少人数制で行うことにより、適切な刺激をたくさん与え、一人ひとりの特性に対応した方法で、発達段階やニーズに応じた活動時間と運動量、質の高さを確保します。

個人スキルに応じた指導

個人の強み弱みを知り、それぞれの個性を活かし、課題を一步ずつ達成できるように、スマールステップでの指導を行い、子どもたちに小さな成功体験を数多く提供します。